

働く意味、経済の仕組みについて金融のプロから学ぶ矢板西小児童



「働くとはどういうことか」「働いて得たお金で成り立つ世の中の仕組みは」。今月下旬、金融のプロが子どもたちに仕事と経済の仕組みや意義を教える取り組みが矢板市西小で行われた。産業・経済が構造的に変化し、雇用形態が多様化・流動化する中、子どもたちの「キャリア教育」「経済教育」が注目される。新学習指導要領にも教育現場での一層の推進が盛り込まれ、重要性は増している。

（阿久津信子）

同校5、6年生約40人が一つの教室に集まった。黒板の前には学校の先生ではなく、全国の経営者で組織する「元気な日本をつくる会（東京都渋谷区）の中野啓啓さん（47）が立った。中野さんは都内の投資信託会社社長。金融のプロの立場から児童に語りかけた。

矢板市西小

「みんな、お小遣いはどういう風にもらってる？ お父さんやお母さんがお財布からお小遣いをくれるけど、そのお金はお父さんやお母さんが働いてお給料をもらって調達してくるんだ」。講師の中野さんは、児童にとって興味のある「お小遣い」を引き合いに出し仕事と結びつける。「働くと、なぜ給料をもらえるのか」を考えることが重要だからだ。

近年、キャリア教育について「野球のプロ、巨人のラミレスはどうしてお給料をたくさんもらえると思う？ ラミレスはたくさんホームランを打つ。そうすると、大勢の人が喜んでみんな「ありがとう」と言う。立派な仕事をした」と

重要度増す職業・経済教育

小学生金融のプロに学ぶ

は各分野のプロが協力し合っただけで成り立ち、人々は24時間、経済の中で生きていけると説いた。

「将来、どんなプロになりたいか」と聞かれ「介護福祉士になりたい」と答えた6年生の小川美悠さん（12）は「これからお年寄りが増える時代。感謝の教もたくさん」と励まされ、笑顔を見せていた。

県学校教育課によると、二つの社会問題化などからキャリア教育の必要性が一層高まっている。さらに、新しい学習指導要領の小学校5年生の社会科では「生産には費用が掛かり、それが価格に反映する」といった経済のシステムを理解する視点も組み込まれた。

「現在の不安感や自信喪失が日本経済を衰退させてしまつ。子どもたちに大人になることの夢とワクワク感を伝え、未来の人材を育てる教育投資は日本の次世代の繁栄につながるはず」と野さんは仕事の意味、やりがいと話をしていた。

「お父さんやお母さんも立派な仕事をして『ありがとう』と言われ給料をもらっているんだ」と、中野さんは仕事の意味、やりがいと話をしていた。

「お父さんやお母さんも立派な仕事をして『ありがとう』と言われ給料をもらっているんだ」と、中野さんは仕事の意味、やりがいと話をしていた。